

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 7 区分

【発行日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【公開番号】特開2003-201088(P2003-201088A)

【公開日】平成15年7月15日(2003.7.15)

【出願番号】特願2002-360935(P2002-360935)

【国際特許分類】

B 6 6 C 23/687 (2006.01)

【F I】

B 6 6 C 23/68 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年2月29日(2008.2.29)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 3】

かかるジブの設計者は、主として、このように負荷されるジブ部分に関する断面を最良に構成することに関心を有する。かかる断面は、最大応力があらゆる方向に同じである場合に考察することが最も簡単であり、その許容し得る応力を概算する。これらの条件は、薄い壁の環状管や四角のトラス構造の例に関して、全方向に均等な力がもたらされた場合にのみ満たされる。もし断面が例えば水平方向よりもむしろ鉛直方向に負荷荷重されれば、最適な円状の断面が楕円となり、また、最適な角のある断面が矩形のトラス構造となる。上記 2 つの例の断面は、不均衡の力をなくするために、それらが幅広であるよりも高くなる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 1】

【発明が解決しようとする課題】

公知のジブの上側輪郭部及び下側輪郭部の種々の形状により実現される改良にもかかわらず、例えばジブの上下する動作、ワイヤー支持タイプ又はプリテンションタイプのシステムにおいて、若しくは、鉛直に近い方向でジブを位置決めする場合には、極端な負荷に関して最適な解決策はない。かかる状況では、上側輪郭部における引張り応力が最小となるものの、負荷が小さくても、大きな力がジブの主軸に沿って作用して、実質的に横方向の力がもたらされる。最終的な横方向の力は、これらの作用位置にて非常に大きくなり、その結果、ジブは、深刻な反りの危険にさらされることとなる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 2】

【課題を解決するための手段】

本発明は、前述した不都合が生じないタイプの伸縮式ジブを提供することを目的として

なされたものである。特に、本発明は、反りに対する向上した抵抗性を示し、また、それにより、例えばジブの上下する動作において、ワイヤー支持タイプのシステムにおいて、若しくは、ほぼ鉛直である方向で位置決めされる一方、実質的な負荷を支持するジブを位置決めする場合に、極度の負荷を支持するのに適した伸縮式ジブを提供することを目的としてなされたものである。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 3】

本発明を用いて実現される利点は、ジブ部分の上側輪郭部が、幾つかのシェルセグメントにより形成されるという事実に基づく。各シェルセグメントは、外方に湾曲した形状を有しており、隣接する部分と互いに鈍角をなして接する。このように、外方に湾曲した個々のセグメント間の結合は、反りを無効にするために、理想的な補強材として作用する。これは、プリテンションタイプ及び／又はワイヤー支持タイプのジブシステムにおいて、若しくは、ほぼ鉛直である方向に大きな負荷を上昇させるべく、ジブを用いる場合に、本発明によるジブにおいては、上側輪郭部及び下側輪郭部の両方が、圧縮負荷され得ることから、ジブの上下する動作に対して非常に有利である。従来の伸縮式ジブと異なり、シェルの上側輪郭部の断面は、圧縮の支えとなり、また、剛性が、本発明の伸縮式ジブ輪郭部において大きくなる。また、同時に、ジブの全体重量は最小限に抑制される。更に、本発明による上側輪郭部の形状は、1つのジブ部分の上側シェルから、伸縮式ジブの次のより大きなジブ部分に伝わる力を吸収するための、非常に大きな容量をもたらす。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

本発明の他の好適な実施の形態によれば、上側輪郭部における外方に湾曲したシェルセグメントが、1つ、2つ又は複数の直線状の又はフラットなセグメントの間に配置されてもよい。これにより、より均一な応力の分散が可能となり、鉛直面における曲がりによる歪みに基づく、断面の楕円化が抑制されることとなる。これは、実質的な引張り応力が、ジブの上側輪郭部に負荷された場合に有効である。特に、直線状の又はフラットなシェルセグメントが、上側輪郭部の上側の水平な領域において位置する場合には、従来の半ボックス形状をなす上側輪郭部の長所が採用され、本発明によるジブの直線セグメントの導入により、ジブの断面の全体高さが抑制される。これにより、また、ジブの下側の位置におけるジブの高さが抑制され、その結果、ジブが収納されたクレーンの全体高さが抑制される。このことは、入子式に収納されるクレーンを搬送する場合に、有用である。